

子夜呉歌（李白）

長安一片月 萬戸擣衣聲  
秋風吹不盡 總是玉關情  
何日平胡虜 良人罷遠征

長安 一片の 月

万戸 衣を 擣つの 声

秋風 吹いて 尽きず

総て 是れ 玉関の 情

何れの 日か 胡虜を 平げて

良人 遠征を 罷めん

解説 子夜呉歌は樂府題の一つ。「子夜歌」ともいう。東晋の時代に子役という女性がこの曲を作ったが、その曲調はなほだ哀切だったという。李白のこの詩も春・夏・秋・冬の四首から成っていて、これは、その秋の詩である。

語釈 ※長安 唐の都。夫を思う妻のいる所。※一片月 一つの月。片われ月ではない。あたりいったいに光を注ぐ月で、満月。※万戸 すべての家が。※擣衣声 砧を打つ音。※総て 是 月、砧を打つ音、秋風これらのものすべてという意。  
※玉関 玉門関のこと。唐代における最西北の関所。※胡虜 西北の異民族。  
※良人 夫のこと。

通釈 澄みわたった長安の夜空に月がひとつ下界を照らしており、どこの家からも砧を打つ音が寂しく聞こえてくる。そしてさらに、秋の風は絶え間なく吹き続けている。月光・砧の音・秋の風、これらはすべて、家に留守している妻の、玉門関にいる夫を思い慕う情を引き起こすものである。いったい、いつになったら、愛する夫は西北の異民族を平定して、無事に帰ってくるのであろうか。その日が待ち遠しいことである。